

2016 年 北東アジア地域自治体連合（N E A R）
環境分科委員会報告資料



日本国富山県
(2017 年 3 月)

目 次

I	環境分科委員会の活動状況	1
1	第12回環境分科委員会の開催	1
2	個別プロジェクトに関する調査の実施	1
II	個別プロジェクト	2
1	2016年個別プロジェクト	2
1-1	提案プロジェクト	2
1-2	各自治体の参加状況	2
1-3	プロジェクトの実施状況	3
(1)	プロジェクト No. 1 北東アジア地域環境体験プログラム（沿海地方、富山県）	3
(2)	プロジェクト No. 2 海辺の漂着物調査と漂着物アート制作（富山県）	5
(3)	プロジェクト No. 3 北東アジア地域環境ポスター展（江原道）	7
(4)	プロジェクト No. 4 海岸生物調査（富山県、沿海地方）	8
2	2017年個別プロジェクト	9
2-1	提案プロジェクト	9
2-2	各自治体の参加意向調査結果	9
2-3	提案状況	10
(1)	プロジェクト No. 1 北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業（慶尚南道、富山県）	10
(2)	プロジェクト No. 2 海辺の漂着物調査と漂着物アート制作（富山県）	11
(3)	プロジェクト No. 3 北東アジア地域環境ポスター展（富山県）	13
(4)	プロジェクト No. 4 海岸生物調査（富山県）	14
III	次期コーディネート自治体	15
1	次期コーディネート自治体の希望調査の実施	15
2	調査結果	15
IV	環境分科委員会の活動計画	15

I 環境分科委員会の活動状況

1 第12回環境分科委員会の開催

(1) 開催日 2015年11月11日

(2) 参加自治体 4か国6自治体

日 本 (1) 富山県
中 国 (1) 山東省
韓 国 (2) 江原道、忠清南道
ロ シ ア (2) 沿海地方、ハバロフスク地方

(3) 会議の結果

① 次期コーディネート自治体の選出

次期コーディネート自治体として、富山県が選出された。

(任期：2015年7月14日～2017年7月13日)

② 個別プロジェクトの実施状況及び活動報告(2015年)

提案自治体から、2015年の個別プロジェクトの実施状況について報告された。

2015年個別プロジェクト名	提案自治体
北東アジア地域環境体験プログラム	富山県
海辺の漂着物調査と漂着物アート制作	富山県
北東アジア地域環境ポスター展	富山県

③ 2016年提案個別プロジェクトの説明

各提案自治体から、2016年に実施を希望する3件の継続プロジェクトと1件の新規プロジェクトが提案され、参加者の同意により実施されることになった。

2016年個別プロジェクト名	提案自治体
北東アジア地域環境体験プログラム (継続)	沿海地方、富山県
海辺の漂着物調査と漂着物アート制作 (継続)	富山県
北東アジア地域環境ポスター展 (継続)	江原道
海岸生物調査 (新規)	富山県、沿海地方



会議風景

2 個別プロジェクトに関する調査の実施

- (1) 2016年個別プロジェクトの参加意向調査の実施 (2016年 1月)
- (2) 2016年個別プロジェクトの実施状況調査の実施 (2016年 11月)
- (3) 2017年個別プロジェクトの提案調査の実施 (2016年 11月)
- (4) 2017年個別プロジェクトの参加意向調査の実施 (2017年 2月)

II 個別プロジェクト

1 2016年個別プロジェクト

1-1 提案プロジェクト

No.	プロジェクト名	提案自治体
1	北東アジア地域環境体験プログラム	沿海地方、富山県
2	海辺の漂着物調査と漂着物アート制作	富山県
3	北東アジア地域環境ポスター展	江原道
4	海岸生物調査	富山県、沿海地方

1-2 各自治体の参加状況 (◎：提案自治体 ○：参加自治体)

プロジェクト No.		1	2	3	4
自治体名					
中国	遼寧省	○	—	—	—
	黒龍江省	○	—	○	—
	山東省	—	—	—	—
日本	青森県	—	—	—	—
	山形県	—	○	—	—
	新潟県	—	—	—	—
	富山県	◎	◎	○	◎
	石川県	—	○	—	—
	福井県	—	○	—	○
	京都府	—	○	—	—
	兵庫県	—	○	—	—
	鳥取県	—	○	—	—
	島根県	—	○	—	—
	山口県	—	○	—	○
	佐賀県	—	○	—	—
	長崎県	—	○	—	—
韓国	江原道	○	○	◎	—
	忠清南道	○	○	○	○
	慶尚南道	○	○	○	○
モンゴル	ドンドゴビ県	—	—	○	—
	セレンゲ県	—	—	—	—
	中央県	—	—	—	—
ロシア	ブリヤート共和国	—	—	—	—
	サハ共和国	—	—	—	—
	ザバイカリエ地方	—	—	—	—
	沿海地方	◎	○	○	◎
	ハバロフスク地方	○	○	○	○
	アムール州	—	—	—	—
	イルクーツク州	—	—	—	—
	サハリン州	—	—	—	—
トムスク州	—	—	○	—	
参加自治体数		8	16	9	7

1-3 プロジェクトの実施状況

(1) プロジェクト No. 1 「北東アジア地域環境体験プログラム」(沿海地方、富山県)

① 目的

北東アジア地域の青少年に対して、環境問題に関する意見交換や環境保全活動を体験する機会を提供し、国際交流を通じて、この地域の環境保全に取り組む人材を育成する。

② 事業内容

ア 実施時期 2016年8月19日～20日

イ 実施場所 ロシア沿海地方ウラジオストク市

「ウラジオストク国立経済・サービス大学国際言語学校」ほか

ウ 実施方法

(ア) テーマ 「生物多様性保全」

(イ) 活動内容

- ・各参加自治体の代表者からの活動発表
- ・ポスターセッション
- ・環境関係ポスター、海洋ごみを利用したアートなどの制作
- ・ロシア科学アカデミー極東支部海洋生物学研究所及び植物園の視察
- ・「2016 沿海地方環境宣言文」の発表

(ウ) 参加自治体

4か国8自治体

中国：遼寧省、黒龍江省

日本：富山県

韓国：江原道、忠清南道、慶尚南道

ロシア：沿海地方、ハバロフスク地方

(エ) 参加者数 中高生等 59名

(オ) 開催風景



活動発表



ポスターセッション

③ 2015年度事業結果

ア 参加自治体

4か国9自治体

中国：遼寧省、黒龍江省

日本：山形県、富山県

韓国：江原道、忠清南道、慶尚南道

ロシア：沿海地方、ハバロフスク地方

イ 参加者数 中高生等 63 名

ウ 時 期 2015 年 8 月 19 日～20 日

エ 場 所 富山県魚津市 「金太郎温泉」ほか

オ テ ー マ 「海洋環境保全 ～豊かな海づくりに向けて～」

カ 内 容

- ・活動発表 各参加自治体の代表者からの活動発表
- ・環境体験 ポスターセッション、魚津水族館の取組み視察、海岸漂着物調査及び海岸清掃活動、漂着物クラフトの制作
- ・その他 「2015 富山環境宣言文」の発表

キ 開催風景



活動発表



海岸清掃活動

ク その他

実施状況の詳細は、ウェブサイトに掲載

http://www.npec.or.jp/northeast_asia/youth/index.html

(2) プロジェクト No. 2 「海辺の漂着物調査と漂着物アート制作」(富山県)

① 目的

- ア 人工物による海辺の汚染実態を継続的に把握することにより、海洋環境保全対策、廃棄物対策等を推進するための基礎資料とすること
- イ 海岸漂着物を利用したアート作品の制作などを通して、子供たちが海岸漂着物の実態や海洋環境保全について学習し、その発生源となるごみを出さないための行動を自ら実践していくきっかけとすること
- ウ 地域住民の調査への参加及びアート作品の制作体験を通して「ごみを捨てない心、海の環境を守ろうとする心を育む」という共通意識を醸成し、環境教育を推進すること

② 事業内容

ア 海辺の漂着物調査

(ア) 実施時期 2016 年秋季

(イ) 実施場所 各参加自治体の海岸

(ウ) 実施方法

- 調査主体 各参加自治体が小学生、中学生、高校生及び民間団体の協力を得て実施
- 調査回数 各地点 年1回
- 調査方法
 - ・海水浴場等に、波打ち際から陸地方向へ連続的に3区画程度の調査区画(1区画 10m×10m)を設定する。
 - ・設定した調査区画内の漂着物を全て拾い集め、種類別に分類し、個数及び重量を測定する。
 - ・海岸漂着物などに関する海洋環境保全学習を併せて実施するよう努める。
- 調査結果
各参加自治体から富山県に提出された調査結果は、(公財)環日本海環境協力センターがとりまとめを行い、報告書等を作成する。

(エ) 参加自治体

3か国 16自治体

日 本：山形県、富山県、石川県、福井県、京都府、兵庫県、鳥取県、島根県、山口県、佐賀県、長崎県

韓 国：江原道、忠清南道、慶尚南道

ロシア：沿海地方、ハバロフスク地方

(オ) 開催風景



富山県における実施状況

イ 漂着物アート制作

(7) 実施時期：通年

(4) 実施場所：各参加自治体内の会場等

(ウ) 実施方法：

各参加自治体が地元の小中高等学校、民間団体等の参加、協力を得て漂着物アート制作体験会等を実施

(エ) 参加自治体

富山県、福井県、沿海地方、ハバロフスク地方

(参考 2015 年度参加自治体：富山県、沿海地方、ハバロフスク地方)

(オ) 開催風景



富山県における実施状況



福井県における実施状況

③ 2015 年度事業結果

ア 参加自治体

北東アジア地域自治体連合会員とその他の自治体を合わせた 15 自治体

イ 実施結果

3 か国 15 自治体の 53 海岸で調査を実施

実施結果報告書は、「海洋ごみポータルサイト」(下記リンク)で公開

<http://www.npec.or.jp/umigomiportal/result/index.html>

(3) プロジェクト No. 3 「北東アジア地域環境ポスター展」(江原道)

① 目的

北東アジア地域の次代を担う子供たちから「環境の保全」をテーマとしたポスターを募集し、優秀作品を展示することにより、市民の北東アジア地域の環境保全意識を一層深める機会とする。

② 事業内容

ア 実施時期 2016年11月

イ 実施場所 韓国 江原道原州市気候変化教育センター内「気候変化広報館」

ウ 実施方法

- ・参加自治体から作品送付(7月～9月)
- ・環境ポスター展の開催(11月)
- ・参加自治体へ作品返却

エ 参加自治体

5か国9自治体

中国：黒龍江省

日本：富山県

韓国：江原道、忠清南道、慶尚南道

モンゴル：ドンドゴビ県

ロシア：沿海地方、ハバロフスク地方、トムスク州

オ 展示枚数 72枚

カ 見学者数 1,513人

キ 開催風景



③ 2015年度事業結果

ア 参加自治体

4か国7自治体

中国：黒龍江省

日本：富山県

韓国：江原道、忠清南道、慶尚南道

ロシア：沿海地方、ハバロフスク地方

イ 時期 2015年10月～11月

ウ 場所 富山県富山市 「とやま環境フェア2015(環境イベント)」、
「エコタウン(環境教育施設)企画展示」

エ 展示枚数 64枚

オ その他 実施結果は、ウェブサイトに掲載

http://www.npec.or.jp/northeast_asia/introduction/page03.html

(4) プロジェクト No. 4 「海岸生物調査」(富山県、沿海地方)

① 目的

北東アジア地域の海洋生物多様性の保全に向けて、各地域に生息する生物に関する情報の収集、指標生物の生息調査を実施する。本調査を通じて、一般市民・子供たちの海の生物への興味を深めてもらい、環境保全・生物多様性保全の意識高揚を図る。

② 事業内容

ア 実施時期 2016年8月～9月(連絡会議12月)

イ 実施場所 各参加自治体の海岸

ウ 実施方法

- ・海洋生物多様性保全関係機関連絡会議が調査の実施方法を取りまとめたマニュアルを作成し、参加自治体と共有(各国語版を作成し、配布)
- ・海の生物に関する知識を有する調査機関、NGO/NPOや専門家が主体となり、一般市民の参加のもと、海岸の生物を収集し、観察生物名・写真を記録
- ・地球温暖化や外来生物に係る指標生物の存在有無の確認
- ・調査結果は、(公財)環日本海環境協力センターが取りまとめ、ウェブサイトを通じて情報発信

エ 参加自治体

3か国7自治体

日 本：富山県、福井県、山口県

韓 国：忠清南道、慶尚南道

ロ シ ア：沿海地方、ハバロフスク地方

オ 開催風景



2 2017年個別プロジェクト

2-1 提案プロジェクト

No.	プロジェクト名	提案自治体
1	北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業	慶尚南道、富山県
2	海辺の漂着物調査と漂着物アート制作	富山県
3	北東アジア地域環境ポスター展	富山県
4	海岸生物調査	富山県

2-2 各自治体の参加意向調査結果 (◎：提案自治体 ○：参加意向自治体)

プロジェクト No.		1	2	3	4
自治体名					
中国	遼寧省	○	—	○	○
	黒龍江省	○	—	○	—
	山東省	—	—	—	—
日本	青森県	—	—	—	—
	秋田県	—	○	—	—
	山形県	—	○	—	—
	新潟県	—	—	—	—
	富山県	◎	◎	◎	◎
	石川県	—	○	—	○
	福井県	—	○	—	○
	京都府	—	—	—	—
	兵庫県	—	—	—	—
	鳥取県	—	○	—	—
	島根県	—	○	—	—
	山口県	—	○	—	—
	福岡県	—	—	—	—
	佐賀県	—	○	—	—
長崎県	—	○	—	—	
韓国	江原道	○	○	○	—
	忠清南道	○	○	○	○
	慶尚南道	◎	○	—	○
モンゴル	ドンドゴビ県	—	—	—	—
	セレンゲ県	—	—	—	—
	中央県	—	—	—	—
ロシア	ブリヤート共和国	—	—	—	—
	サハ共和国	—	—	—	—
	ザバイカリエ地方	—	—	—	—
	沿海地方	○	○	○	○
	ハバロフスク地方	○	○	○	○
	アムール州	—	—	—	—
	イルクーツク州	—	—	—	—
	サハリン州	—	—	—	—
	トムスク州	○	—	○	—
参加意向自治体数		9	15	8	8

2-3 提案状況

(1) プロジェクト No. 1 「北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業」(慶尚南道、富山県)

① 目的

北東アジア地域の青少年に対して、環境問題に関する意見交換や環境保全活動を体験する機会を提供し、国際交流を通じて、この地域の環境保全に取り組む人材を育成する。

② 事業内容

ア 実施時期 2017年8月

イ 実施場所 韓国慶尚南道

ウ 実施方法等

テーマ：「国境のない自然環境保全活動の実践」

参加者数：各参加自治体8名程度（青少年6名、指導者2名）を予定

エ 年間計画

2017年5月頃 参加者募集

2017年8月 事業実施

オ 期待される成果

- ・北東アジア地域の環境問題に対する理解や共通認識が深まるとともに、環境保全活動への参加意欲の向上が期待できる。また、ともに取り組んでいくといった連帯感が生まれ、国際的なネットワークの構築につながる。
- ・環境問題解決に主体的に参画し、提案できる人材の育成が期待できる。

③ 参加自治体への協力要請事項

ア 協力要請の内容

開催自治体 テーマの企画、参加者の募集、ワークショップ等の開催
地元の経済界や学界への協力要請

参加自治体 参加者の募集・派遣

イ 経費負担の要請

(ア) 経費負担の有無

あり

(イ) 経費負担の概要

- ・開催自治体への渡航費は参加自治体が負担する。
- ・現地滞在費及びワークショップ開催費用については、開催自治体が負担する。

(2) プロジェクト No. 2 「海辺の漂着物調査と漂着物アート制作」(富山県)

① 目的

- ア 人工物による海辺の汚染実態を継続的に把握することにより、海洋環境保全対策、廃棄物対策等を推進するための基礎資料とすること
- イ 海岸漂着物を利用したアート作品の制作などを通して、子供たちが海岸漂着物の実態や海洋環境保全について学習し、その発生源となるごみを出さないための行動を自ら実践していくきっかけとすること
- ウ 地域住民の調査への参加及びアート作品の制作体験を通して「ごみを捨てない心、海の環境を守ろうとする心を育む」という共通意識を醸成し、環境教育を推進すること

② 事業内容

子供や市民の参加を得て、漂着物調査や海洋環境保全学習を行う。また、可能な自治体においては、漂着物を利用したアート作品の制作を行う。

ア 実施方法等

(7) 海辺の漂着物調査

- a. 実施時期：2017 年秋季
- b. 実施場所：参加自治体の沿岸地域
- c. 実施方法：調査は各自治体が地元の小中高等学校、民間団体等の参加を得て実施
調査結果は富山県（(公財)環日本海環境協力センター（NPEC））がとりまとめを行う
- d. その他：調査項目にマイクロプラスチック（直径5mm以下のプラスチックごみ）を追加予定（簡易な調査方法とする予定）

(イ) 漂着物アート制作

- a. 実施時期：通年
- b. 実施場所：各参加自治体内の会場等
- c. 実施方法：富山県が提供する手引書等も参考にして、各自治体が地元の実情に応じて、学生、住民等の参加を得て実施

イ 期待される成果

- ・プラスチック等の人工物による海辺の汚染実態の継続的把握
- ・「ごみを捨てない心、海洋環境を守ろうとする心を育む」という住民の環境保全に対する意識の高揚

③ 参加自治体への協力要請事項

ア 協力要請の内容：

(7) 海辺の漂着物調査

- ・調査海岸の選定
- ・調査を実施する民間団体等の確保
- ・調査を実施する民間団体等の指導、調査の実施
- ・調査結果の本県への報告

(イ) 漂着物アート制作

- ・活動の企画、関係者との調整、参加者の募集等
- ・漂着物等の素材、活動に使用する道具等の準備
- ・住民等の参加による活動の実施、結果のまとめと報告

イ 経費負担の要請

(7) 経費負担の有無
あり

(イ) 経費負担の概要

a. 海辺の漂着物調査

・必要な経費は参加自治体による負担とする。

ただし、巻尺、ピンセット、はかりなど調査に必要な機材の購入代や、移動に伴うガソリン代、写真現像代などの経費の一部を、富山県が予算の範囲内で負担する予定。

b. 漂着物アート制作

・必要な経費は参加自治体による負担とする。

(3) プロジェクト No. 3 「北東アジア地域環境ポスター展」(富山県)

① 目的

北東アジア地域の次代を担う子供たちから「環境の保全」をテーマとしたポスターを募集し、優秀作品を展示することにより、市民の北東アジア地域の環境保全意識を一層深める機会とする。

② 事業内容

(7) 実施時期

2017 年秋季

(4) 実施場所

中国黒龍江省

(5) 実施方法

- ・各参加自治体内で子供たち(小中学生を対象)から作品募集、審査
- ・各参加自治体が優秀作品を開催自治体に送付
- ・開催自治体で各参加自治体の作品展示、普及啓発を実施

(1) 年間計画

4月～7月 参加自治体との連絡調整、作品募集、送付

秋季 環境ポスター展の開催

1月～3月 作品返送

(6) 期待される成果

北東アジア地域の環境問題に対する理解や共通認識が深まる。

③ 参加自治体への協力要請事項

ア 協力要請内容

(7) 開催自治体

- ・参加自治体への開催通知、優秀作品の送付依頼
- ・開催自治体内で作品募集、審査
- ・参加自治体から送付された作品でポスター展を開催、普及啓発の実施
- ・作品を参加自治体に返却

(4) 参加自治体

- ・参加自治体内で作品募集、審査
- ・優秀作品(タイトル、作者のメッセージ等とあわせて)を開催自治体に送付
(2017年の募集作品が時期的に送付できない場合は、2016年の作品でもよい)

イ 経費負担の要請

(7) 経費負担の有無

あり

(4) 経費負担の概要

- ・ポスター展や普及啓発イベント等の開催費用は、開催自治体が負担する。
- ・参加自治体から開催自治体への作品の送料は、参加自治体が負担する。
- ・開催自治体から参加自治体への作品の返送の費用は、開催自治体が負担する。

(4) プロジェクト No. 4 「海岸生物調査」(富山県)

① 目的

北東アジア地域の海洋生物多様性の保全に向けて、各地域に生息する生物に関する情報の収集、指標生物の生息調査を実施する。本調査を通じて、一般市民・子供たちの海の生物への興味を深めてもらい、環境保全・生物多様性保全の意識高揚を図る。

② 事業内容

ア 実施時期

年1回程度

イ 実施場所

参加自治体の海岸（多くの生物が生息する岩場や磯場が望ましい）

ウ 実施方法

- ・(公財)環日本海環境協力センターが調査の実施方法を取りまとめたマニュアルを配布し、参加自治体と共有
- ・海の生物に関する知識を有する調査機関、NGO/NPO や専門家が主体となり、一般市民の参加のもと、海岸の生物を収集し、観察生物名・写真を記録
- ・地球温暖化や外来生物に係る指標生物の存在有無の確認
- ・調査結果は、(公財)環日本海環境協力センターが取りまとめ、ウェブサイトを通じて情報発信

エ 年間計画

6～7月 参加者の募集

7～8月 調査の実施

11月頃 連絡会議を開催し、各機関からの結果報告

オ 期待される成果

- ・海岸に生息する海洋生物の北東アジア地域での分布状況の把握
- ・指標生物の生息範囲の把握
- ・海洋生物多様性、海洋環境の保全に対する意識の高揚

③ 参加自治体への協力要請事項

ア 協力要請内容

- ・本調査を実施する調査機関、NGO/NPO もしくは専門家の選定
- ・調査機関との調査実施、結果報告に関する連絡調整

イ 経費負担の要請

(7) 経費負担の有無

なし（経費の掛からない範囲で実施）

Ⅲ 次期コーディネート自治体

1 次期コーディネート自治体の希望調査の実施

- (1) 実施時期 2017年2月
(2) 調査自治体 北東アジア地域自治体連合環境分科委員会会員自治体 (22自治体)

2 調査結果

希望自治体 富山県

Ⅳ 環境分科委員会の活動計画

年 月	内 容
2016年11月	・2016年個別プロジェクト実施状況及び2017年個別プロジェクト提案調査 コーディネート自治体が、2016年個別プロジェクトの実施状況調査を行った。 併せて、2017年に実施予定の個別プロジェクトの提案調査を行った。
11~12月	・2017年提案個別プロジェクトの取りまとめ コーディネート自治体が、提案のあった2017年個別プロジェクトを取りまとめた。
2017年2月	・2017年個別プロジェクト参加意向調査 コーディネート自治体が、北東アジア地域自治体連合の会員自治体に2017年個別プロジェクトへの参加意向調査を行った。
3月	・2017年個別プロジェクト参加意向調査結果のとりまとめ コーディネート自治体が、参加意向調査結果を取りまとめた。 ・環境分科委員会報告資料の作成 コーディネート自治体が、環境分科委員会報告資料を作成し、北東アジア地域自治体連合の会員自治体に送付する。(※環境分科委員会は隔年開催)
(適宜実施)	・提案自治体と参加意向自治体が個別プロジェクトの実施に向けて協議する。 ・合意があった場合、適宜個別プロジェクトを実施する。
8~10月	・2017年個別プロジェクト実施状況及び2018年提案個別プロジェクトの調査 コーディネート自治体が、2017年個別プロジェクトの実施状況調査を行う。 併せて、2018年に実施予定の個別プロジェクトの提案調査を行う。 ・2018年提案個別プロジェクトの取りまとめ コーディネート自治体が、提案のあった2018年個別プロジェクトを取りまとめる。
秋頃	・北東アジア地域自治体連合第13回環境分科委員会の開催 (議題)・これまでの個別プロジェクトの成果報告 ・2017年個別プロジェクトの実施状況 ・2018年個別プロジェクトの提案状況 ・次期コーディネート自治体の選出 等

「2016 北東アジア自治体環境専門家会合 in とやま」の概要

2016年5月に本県において開催された「G7 富山環境大臣会合」にあわせて、今後の北東アジア地域における環境保全に向けた連携強化を図るため、日本・中国・韓国・ロシアの自治体や大学等から参加を得て「2016 北東アジア自治体環境専門家会合 in とやま」を開催しました。

大臣会合での議題に取り上げられていた、気候変動、生物多様性、海洋ごみを中心に、自治体レベルで今後取り組むべきことについて確認し合い、北東アジア地域の環境問題の解決に向けた「2016 とやま宣言」を採択しました。また、今後、北東アジア地域自治体連合において宣言に基づく取組みの実施状況の確認を行うことが合意されました。

- 1 開催日時 平成 28 年 5 月 23 日（月）9:00～16:25
- 2 開催場所 ホテルグランテラス富山 4F「瑞雲」
- 3 主催 富山県、(公財)環日本海環境協力センター
- 4 参加者 北東アジア地域の自治体関係者及び経済界・学界からの有識者 37名
- 5 結果概要

基調講演	・「G7 富山環境大臣会合の成果」 <環境省地球環境局長 梶原 成元 氏> ・「富山県の環境政策について」 <富山県知事 石井 隆一>
セッション1、2	「2007とやま宣言」に基づく取組成果、北東アジア地域で新たに取り組むべき環境保全活動（①気候変動、②生物多様性、③海洋ごみなど）<各国専門家>
総括セッション	「2016 北東アジア自治体環境専門家会合とやま宣言（2016 とやま宣言）」の採択

※ 全セッションの座長は、(公財)環日本海環境協力センター 理事長（元中央環境審議会 会長）鈴木基之氏



2016 北東アジア自治体環境専門家会合 in とやま

2016 北東アジア自治体環境専門家会合とやま宣言

— 2016 北東アジア自治体環境専門家会合 in とやま —

我々、北東アジア地域の経済界、学界及び地方自治体からの会議参加者は、2016年5月23日、日本国富山県において集まり「北東アジア自治体環境専門家会合 in とやま」を通じて、北東アジア地域で取り組まれてきた国際環境協力事業が大きな成果を収めており、今後も世界共通の課題となっている地球環境問題などの解決や北東アジア地域の豊かな環境を将来の世代に引き継ぐために協力することの重要性を認識し、環境保全に連携して取り組んでいくことを宣言する。

1 共通認識

我々は、以下のことを共通認識として確認した。

- (1) 我々は、2007年12月、第9回日中韓三カ国環境大臣会合(開催地；富山県)に併せて開催した「北東アジア環境パートナーズフォーラム in とやま」において採択した「北東アジア環境パートナーシップとやま宣言」に基づき「広域的な環境モニタリング体制及びネットワークの構築」、「環境保全のための技術情報の共有」、「国際環境協力を担う人材の育成」に関連する国際環境協力事業に積極的に取り組み、大きな成果を収めていることを認識した。
- (2) 我々は、2016年5月15日及び16日に日本国富山県で開催された「G7富山環境大臣会合」において、気候変動、生物多様性、海洋ごみなどの地球環境問題への対応をはじめ、都市の果たし得る役割の重要性が高まってきていることが再確認されたことなどを踏まえ、中央政府レベルによる対策だけでなく地方や自治体レベルでも取り組む必要があることを認識した。
- (3) 我々は、北東アジア地域が、人口や経済の面から全世界の大きな部分を占め、地球環境への負荷の削減について大きな責任を有していることを確認した。また、北東アジア地域の豊かな環境資源を将来の世代に引き継ぎ、持続可能な社会を実現するためには、国境を越えて、様々な立場の人々が環境保全の重要性を理解し、互いに手を携えて行動していくことが必要であることを認識した。

2 個別的事項

我々は、上記の共通認識に基づき、自らが参加し得る範囲において、次の取組みを進める。

(1) 地球環境問題への積極的な貢献

気候変動など地球規模の問題について、北東アジア地域における影響を把握するとともに、それぞれの地域で活動している環境保全の手法や各々が保有している有益な情報・データを共有化するよう努める。

- a 気候変動、生物多様性については、地方自治体、研究機関などが連携し、海岸における生息生物の分布や気候変動の影響に敏感な海岸生物を指標生物とした生息状況を調査し、北東アジアにおける実態把握に努める。
- b 海洋ごみについては、その実態を把握するため、北東アジア地域の地方自治体などが連携して、海岸漂着物を今後も調査する。また、G7富山環境大臣会合で採択された「富山物質循環フレームワーク」の3R促進の観点からも、それぞれの地域においてごみの発生抑制などの取組みを推進する。特に、生態系などへの影響が懸念されるマイクロプラスチック問題に対処するためにも、レジ袋、トレイ、ペットボトルなどの発生抑制と回収・リサイクルに努める。さらに、水質汚濁についてもそれぞれの地域において実態把握を行い、水環境保全に努める。
- c 黄砂・自動車排出ガスなどの大気汚染や森づくりなどの自然環境の保全については、北東アジア地域の各地方自治体で課題となっており共通する課題である。今後もそれぞれの地域において調査を行うなど実態把握等に努めるとともに、改善に向けて技術協力を進める。

(2) 市民協働、環境教育の推進

グローバルな視点で地域の環境保全活動をリードできる人材の育成を目指し、地域の市民との協働で活動を進めるとともに、将来の世代の育成に努める。

- a 気候変動、生物多様性、海洋ごみなどの調査や海岸清掃、森づくりなどの環境保全活動は、市民との協働事業として実施し、市民の一層の参加を促すとともに、青少年や子どもたちの環境教育にも活用する。
- b 北東アジア地域の環境保全活動の主体となるリーダーを育成するため、青少年を対象に、環境問題に関するディスカッション、市民と連携した環境保全に関する取組みを体験する交流プログラムなどを実施する。
- c 大学などの研究機関において、社会科学、自然科学などの観点から進められている環境負荷を低減するための研究や技術開発を進め、社会に還元するとともに、環境保全に寄与する人材の育成に努める。

(3) 国際的な対話の推進

地球規模の環境問題という共通の課題に対し、北東アジア地域において先導的な役割を果たすため、グローバルパートナーシップのもと、今後も対話を継続するよう努める。

- a 環境保全をテーマとした国際フォーラム等については、ロシア沿海地方で「国境のない自然」や日本富山県で海洋ごみや生物多様性に関する北東アジア地域の関係機関会議などが実施されており、環境保全技術などに関して、今後も意見交換等を進める。
- b 北東アジア地域で実施されている人工衛星によるリモートセンシング技術を活用した水質や藻場の調査など新たな環境調査手法や先進的な環境施策などに関する情報交換を進め、ホームページなどで世界に積極的に発信する。
- c 北東アジア地域自治体連合環境分科委員会を活用するなど、環境保全対策を進めるための政策対話を継続し、北東アジア地域での環境対策に関するイニシアティブを発揮するとともに、この宣言の実施状況について定期的に確認していくこととする。

この会合を契機に、北東アジア地域の先駆的な取組みの輪が世界中に拡がり、地球上のすべての人々が地球環境と調和しながら健康で豊かな暮らしを送り続けていくことを期待する。

2016年5月23日

「2016北東アジア自治体環境専門家会合 in とやま」会議参加者一同